

報 告

第3回 JMLA コア研修 参加記

村上 敦子

2018年8月23日(木)～24日(金)に東邦大学習志野メディアセンターで開催された、第3回 JMLA コア研修に参加しました。

JMLA 認定資格であるヘルスサイエンス情報専門員の取得には以前から関心を持っていましたが、資格取得にはこのコア研修受講が必須ということを知り、このたび参加を決心しました。人気のある研修のため、昨年申し込んだ際は定員オーバーで参加できず、今回が「二度目の正直」ということで、気合を入れて受付開始早々に申し込み、無事参加の許可を得ることができました。

折しも研修開催とほぼ時を同じくして台風20号が日本に接近、西日本に襲来しましたが、遠方から来られた方の中には、交通機関の乱れで研修開始時刻ぎりぎりに到着した方もおられたようでした。幸い関東は台風の影響をさほど受けることもなく、予定通り2日間の研修が行われました。研修を運営された方も、参加の方も、両者共に胸をなでおろされたことかと思えます。

JMLA の研修は以前の「医学図書館員基礎研修会」から2016年に「コア研修」と名称を変え、内容構成も一新され、これまでの参加者の意見なども反映して、会を重ねるごとに、よりバージョンアップしているような印象を受けました。2日間という短い研修期間の中で、医学図書館員に必要な最低限な基礎的知識と技能をコンパクトに教えてもらえる、大変充実した内容の研修だったと思います。

授業もただ一方的に講師の話聞くのではなく、時には演習があり、受講者と講師との質疑応答などがある参加型の形式でした。セミナーに参加すると時に睡魔に襲われてしまうこともありますが、今回は最初から最後まで、良い緊張感を持って授業に臨むことができました。

初日の研修の合間に、東邦大学の隣にある千葉県済生会習志野病院の図書室を見学させていただく機会があったのですが、司書の佐藤さんの「本のない図書室」への変革のお話が、大変衝撃的にかつ印象に残りました。

授業の中でもお話がありましたが、資料がデジタル化していく中で、図書館は今、存在理由を問われる状況になりつつあると思います。今後の図書館の進む道や司書はどう利用者と向き合うべきかということを大いに考えさせられましたし、習志野病院図書室は将来の病院図書館に先立つモデルのひとつのように思いました。

コア研修は新任司書向けの研修だそうで、実際、私自身がこの仕事を始めたばかりの頃に受けておけば良かったと思うことしきりでしたが、経験を重ねた司書にとっても、今までの知識と技術の再確認という意味で、大変有意義な内容の研修であると思います。経験の浅深にかかわらず、まだ受講されたことのない方には是非とも受講をお勧めしたいと思います。けれど、関東方面で年1回のみ開催ということで、参加したいと思っても、なかなか難しい方もいらっしゃるかもしれません。

今後、この研修会が他地域でも定期的に開催され、医学系図書館に勤めるより多くの司書が参加できるようになればと思います。